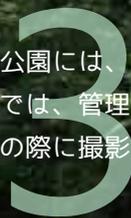


『ひとまちみどり由木』が管理する81ヶ所の公園には、多様な動植物が暮らしています。このコーナーでは、管理作業や巡回の折に出会った動植物について、その際に撮影した写真とともにご紹介していきます。



✿ 身近な植物の個性を愉しむ ✿



ホシザキカタバミ

5枚の黄色い花びらと、3枚のハートが合わさった可愛らしい葉っぱが特徴のカタバミ。ある日、大塚団地公園の巡回中に、八重咲きのカタバミを見つけました。数えてみると、花びらが16枚もありました。その豪華な姿から、「ホシザキカタバミ」と呼ばれる珍しい品種です。



マルバツユクサ（白花）

堀之内東山周辺の道ばたでは、まるでミッキーマウスの顔のような花が愛らしい、マルバツユクサをよく見かけます。堀之内東山はぐくみの森緑地の法面で、花が純白のマルバツユクサを見つけました。色が異なると、印象までだいぶ違って見えるから不思議ですね。



ミドリタチツボスマレ

長池公園の梅園周辺では、例年、奇形型のタチツボスマレが見つかっています。写真は、花びらが葉化（葉っぱ状に先祖返りしたもの）した個体で、「ミドリタチツボスマレ」という品種です。スマレの仲間は、花の奥にある距に蜜を備えています。この品種では距が退化し、花は真上を向いています。



ミモチスギナ

本種は、同じ根から、胞子を付ける茎（ツクシ）と光合成を行うための茎（スギナ）をそれぞれ地上に伸ばします。全く異なる姿をした2つの茎が、うまく役割分担しているのです。一方、長池公園では、栄養茎のてっぺんに胞子茎を付ける“変わり者”が見つかっています。「ミモチスギナ」と呼ばれる珍しい品種です。



ハナイカダ（多数実）

“葉っぱの中央に花が咲き、実がなる”という独特の姿が人気のハナイカダ。通常、1枚の葉に実は1つしか付きませんが、堀之内沖ノ谷戸公園では、1枚の葉に2つや3つの実が付くハナイカダがあります。見た目は立派ですが、“いかだ”に例えるなら、少々定員オーバーかもしれません。



ヤブムラサキ（変わり葉）

昨年、大塚東公園の林縁でとても変わった形の葉を持つ低木を見つけました。葉の両面には毛があり、その触り心地と花の形態から、ヤブムラサキの奇形であることがわかりました。そして、驚くことに今年も同じ木にこの奇妙な葉が出てきました。作業や巡回で通りがかるたびに、つい覗いてしまいます。